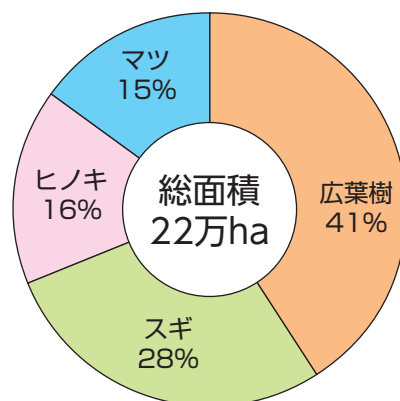


3

とっとりけん りんぎょう 鳥取県の林業

1 しんりん はたら 森林の働きと林業

鳥取県の面積の74%は森林です。昔から、森林の木を切る、使う、植えるといった林業が行われてきました。森林を上手に利用することは、かんきょうにも良い働きがあります。



鳥取県の森林面積
[2021年度鳥取県林業統計より]

くらしの中の木

森林から林業で切り出された木材は、わたしたちのくらしの中でたくさん使われています。柱やかべなど家を建てる材料に使われるほか、本やノート、ティッシュペーパーなど、くらしに欠かせない紙になります。また、まきや炭などの燃料にもなります。



柱、かべ、床、家具などに
たくさん木材が使われている

じぞくかのう しげん さんぎょう 持続可能な資源を利用する産業

木材は、石油や鉄などとはちがひ、木を切った後にふたたび苗木を植えていくことで、くりかえし生産することができる持続可能な資源です。また、森林の中で、きのこや山菜、薬草をさいばいすることもできます。林業は、こうした森林の働きをうまく利用している産業です。



くらしを支える森林からの^{もの}おくり物

林業では、森林で育てた木、きのこ、^{さんさい}山菜やそれらの^{かこうひん}加工品などを売って、^{せいかつ}生活に必要なお金を得ています。また、^{とっとり}鳥取市や^{さかいみなど}境港市には木をもやして^{でんき}電気をつくる^{はつでんしょ}発電所があります。発電所でつくられた電気は、多くの^か家庭で^{てい}使用されています。



^{にっしん}日新バイオマス発電所(境港市)

くらしを^{まも}守る森林

森林は、わたしたちの生活に必要な水をたくわえ、^{ずい}こう水や^{どしゃ}土砂くずれをふせいだり、^{うみべ}海辺の^{かぜ}風や^{すな}砂から守ったりしてくれるほか、^{せいぶつ}いろいろな生物のすみかになっています。また、^{ちきゅうおんだんか}地球温暖化の原因の一つである^{にさんかたん}二酸化炭素をとりこみ、^{こうごうせい}光合成によって^{さんそ}酸素を作ってくれます。森林はわたしたちのくらしを守るのに欠かせません。



^{ばっさい}木の伐採(八頭郡智頭町)



^{かんぼつ}間伐された^{じんこうりん}人工林(日野郡日南町)

2 林業ってこんな^{しごと}仕事

①鳥取県の林業の^{とくしよく}特色

八頭郡では、江戸時代からスギが^う植えられ、^{こうきょ}皇居にも使われるような^{りょうしつ}良質のスギ材が生産されています。^{ひの}日野郡でも多くの木が育っています。^{だいせん}大山を中心とした^{ちいき}地域ではマツ材を生産してきました

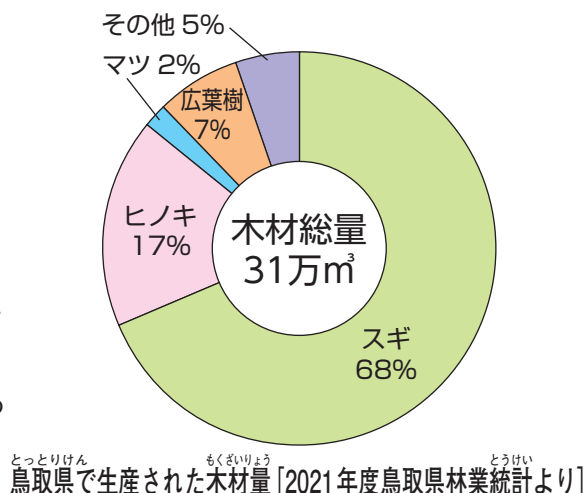


アカマツの林(大山町)

②クローズアップ!『木を生産する』

(1) 木を育てる

苗木を植えてから、下草がり、
間伐、枝打ちなどの手入れをすること
で健全な森林になり、木が利用できる
ようになります。



苗木を植える



下草がり



間伐・枝打ち



よく手入れされた森林

県内では、人の手によって植えられたたくさんのスギやヒノキなどが育っています。一方、木材のねだんが安くなり、手入れされない森林もふえています。その中で林業をがんばっている人や森林の手入れを手伝う人もふえてきています。

(2) 道をつくり、木を切り、運び出す

森林の手入れや山から木を運び出すための道づくりが進められています。これによって、木を切ったり運んだりする機械が山に入るようになりました。その結果、たいへんだった山の仕事が安全で楽にできるようになり、多くの若者が森の中で働くようになりました。



森林の中につくられる道



機械で道まで木材を集める



車で運び出される木材

(3) 木を売り買いし、加工する

鳥取県には3か所の木材市場があり、山から運ばれた丸太が売られています。

市場で買われた丸太は、製材所で板や柱などに加工されます。また、境港市や日南町の工場では丸太をうすくむいて接着剤ではり合わせ、合板や大きな梁や柱などに加工しています。さらに、南部町の工場では、小さな板をはり合わせて、厚くて大きな板（CLT）に加工しています。



木材市場(智頭町)



製材所(若桜町)
住宅に使われる板や柱、土台などを作っています



合板工場(境港市)
床や屋根の下地などに使われる合板を作っています



CLT
住宅の床やかべなどに使われます。

(4) 木を使う

県内には、約340軒の工務店があり、多くの大工さんが活やくしています。

鳥取の気候や風土で育った地元の木を使って、家を建てる運動も広がっています。

鉄やコンクリートで作られていた駅や保育園のような大きな建物にも、木が使われはじめています。



木で作られた駅(八頭町)



木を使って建物を建てている様子

③クローズアップ!『新しい技術で林業が進化!』

デジタル技術などの進歩によって、これまでたいへんだった作業が速く楽にできるようになってきました（スマート林業）。

例えば、飛行機から照らしたレーザー光線の情報を調べることで、歩いて調べなくても森林の中の木の量や地形をくわしく知ることができるようになりました。

また、森林の上にドローンを飛ばして、森林全体の様子をカメラに映したり、苗木を運んだりすることもできます。

新しい技術によって、林業の仕事がどんどん進化しています。



デジタル技術を使った林業（スマート林業）のしくみ



ドローンで苗木を運んでいる様子

④クローズアップ!『環境にやさしい林業』

わたしたちの暮らしを守ってくれる森林を育てるために、木を切るときは少し残して切り、切ったところに新しい木を植えます。

鳥取県では、このたくさんの役割をもつ森林を県民全員（けんみんぜんいん）の力で次の世代（つぎのせだい）に引きついでいけるように、「豊かな森づくり協働税（ゆたかもりきょうどうぜい）」とい

う税金（ぜいきん）を使って、木を植えたり、林業を知ってもらう催し（もよおし）を行うなど、森づくりの活動（かつどう）に取り組んでいます。



鳥取県植樹祭の様子

⑤クローズアップ!『林業で働く人を育てる』

林業の仕事に役に立つ技術を訓練するため、日南町に「にちなん中
国山地林業アカデミー」が開校しました。

また、林業の技術を高め、安全に仕事をするを目的に世界基準
で林業の技術を競う全国大会「日本伐木チャンピオンシップ in 鳥
取」を西日本で初めて開催したり、林業試験場の中に「とっとり林業
技術訓練センター（愛称：グートホルツ）」を開設するなど、林業で
働く人を育てる取り組みをしています。



アカデミーの入学式の様子



伐木チャンピオンシップの競技の様子



グートホルツでの訓練の様子

⑥クローズアップ!『木とふれあい・木に学び・木と生きる』

鳥取県では、子どもも大人もすべての人が木とふれあい、木に学
び、木と生きることで豊かな心を育ててもらえるように「木育」に取り
組んでいます。

例えば、親子で参加できる木育イベント、木育広場の催しや木のお
もちゃの貸し出しなどを行っています。



木育のイベントの様子



木のおもちゃの貸し出し



木とふれあうことができる広場

⑦クローズアップ!『森林をいかしたシイタケづくり』

広葉樹のクヌギやコナラの木を切り、その丸太にシイタケ菌を植え、さいばいします。農薬を使うことがなく、丸太からはえたシイタケは体にも良い健康な食品です。

鳥取県には「鳥取茸王」と「カンナマ」という有名なシイタケがあります。「鳥取茸王」は、みが厚く大型で、高級なシイタケとして売られています。「カンナマ」は、干した状態からでも湯につければ早くもどり、シイタケ特有のにおいも少なく、学校給食にも使われています。



コナラの丸太にはえたシイタケ



シイタケ「鳥取茸王」

シイタケ生産者の声

- 原木シイタケづくりは昔からあるものなので、しっかり守って子供たちに伝えていきたい。
- シイタケ用の木を伐ることは海の生き物を育てることにつながるので、地球にやさしい大切な仕事です。
- いっせいにシイタケが生えると花が咲いたようで、うれしい気持ちになるので、たくさん作っています。



本城 晃さん
(鳥取市)



福井 聡さん
(倉吉市)



田子和之さん
(米子市)